

40周年記念レーダー気象会議に参加して

道本光一郎

第1表 PROGRAM

SESSION 1	SCIENTIFIC AND TECHNOLOGICAL HISTORIES OF RADAR METEOROLOGY
SESSION 2	INSTITUTIONAL AND NATIONAL HISTORIES IN RADAR METEOROLOGY
SESSION 3	TECHNOLOGICAL REVIEWS AND PANEL RESPONSES
	3・1 TECHNOLOGY OF POLARIZATION DIVERSITY RADARS FOR METEOROLOGY
	3・2 METEOROLOGICAL RADAR OBSERVATIONS FROM MOBILE PLATFORMS
	3・3 WEATHER RADAR SIGNAL PROCESSING
	3・4 CLEAR AIR RADAR TECHNIQUES
SESSION 4	SCIENTIFIC REVIEWS AND PANEL RESPONSES
	4・1 RADAR RESEARCH ON THE ATMOSPHERIC BOUNDARY LAYER
	4・2 THE STRUCTURE AND DYNAMICS OF THE FREE ATMOSPHERE AS OBSERVED BY VHF/UHF DOPPLER RADAR
	4・3 CLOUD MICROPHYSICS AND RADAR
	4・4 CONVECTION DYNAMICS
	4・5 METEOROLOGICAL RADAR OBSERVATIONS OF TROPICAL WEATHER SYSTEMS
	4・6 ORGANIZATION AND MECHANISMS OF SYNOPTIC AND MESOSCALE PRECIPITATION SYSTEMS IN MID-LATITUDES
	4・7 PRECIPITATION MEASUREMENT AND HYDROLOGY
SESSION 5	OPERATIONAL APPLICATIONS REVIEW AND PANEL RESPONSE
	5・1 SEVERE THUNDERSTORM DETECTION BY RADAR
	5・2 APPLICATION OF MESOSCALE ANALYSIS TO AVIATION WEATHER
SESSION 6	EDUCATIONAL AND INSTITUTIONAL ISSUES: REVIEW AND PANEL RESPONSE
	6・1 EDUCATIONAL AND INSTITUTIONAL ISSUES IN RADAR METEOROLOGY

1987年11月9日～13日の間、アメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストン市で開催された Battan Memorial and 40th Anniversary Conference on Radar Meteorology に参加した。以下に会議の簡単な Briefing と所感を述べてみたい。

ボストンは第1回のレーダー気象会議が開かれた(1947年)所であり、1987年は40周年記念の年に当たる。また、1986年になくられたアリゾナ大学のパターン教授の追悼も合わせて開催されたものである。

会議の概要は第1表のプログラムの通りである。初日は、Session 1 でレーダー気象学の科学技術的な歴史が発表され、Session 2 では各研究機関やイギリス・カナダ・日本などの歴史とその役割りについての発表が行われた。

2日目以降5日目までは、Session 3～6 までの14項目について、1項目およそ90分間の持ち時間で実施された。招待講演者によるそれぞれの分野の review と panel discussion 形式による批評と討論が行われた。なお、2日目の午前中は各パネルが10～20名のグループに分かれ、円卓を囲んで招待講演者の論文を批評し、その内容を補足して討論にそなえる時間にあてられた。

日本からは、初日午後の Session 2 に小平・青柳両先生が出席され、日本のレーダー気象学の歴史について講演された。京大の深尾先生、電波研の古津さん、土木研の吉野さん、玉本さん、河川情報センターの小岩井さん、東芝の中野さん、三菱の浜津さん、日本無線の吉田さん、そして私の9名は Session 3～6 の各項目のパネリストとしてそれぞれのパネルの批評・討論に参加した。日本からの参加者は合計11名であった。各項目につ

いては、第1表を参照していただきたい。

全般的な印象

レーダー気象学の発展の歴史を再確認できた。同時にこれからの発展の方向づけを示唆していた。航空機や衛星搭載用のレーダー、2偏波レーダーなどの技術開発は非常に興味深い内容であった。

米国は NEXRAD を運用するにあたり、そのオペレーションについて非常に重要と考えているようである。各種情報の収集システム、そしてそれらの適時適切な伝達システムについての開発・教育についての問題点などを真剣に討論していたことが印象に残った。このようなことを今から考えて準備しておかないと、日本はレーダー気象の面で大きく水をあけられてしまうような気がした。国家的なプロジェクトを作る必要性を痛感した。

番外編

会議の初日(9日)と中日(11日)には夕食会が行われ、それに続く余興が延々と11時をまわっても続けられていた。

会議の中ごろに時ならぬ大雪となり、約30cmほどの積雪があった。

ボストン美術館は一見の価値あり。機会があれば足を運んでほしい。私も金曜の午後、小平・青柳両先生から M.I.T. のレーダー見学を誘われたのをお断わりして、美術館へ「モネ」の絵を見に行った。英語で飽和しきった頭には良い薬になったようである。(余談)

最後に、この会議の成果集は1988年2月か3月頃アメリカ気象学会から出版される予定です。

“天気”への会員からの投稿のお願い

編集委員会では、本誌の内容を充実させるために、解説・シンポジウム・論文・学会だよりのほかに、支部だよりの・会員の広場・素顔'88・最近の研究から・WCPの窓・日々の衛星画像・週疑応答・海外だよりの・本だ・ニュース・情報 File など、いろいろな欄を設け、それぞれ担当の編集委員を決めて努力をしています。

1988年3月

これらの欄の原稿は、編集委員の自作や依頼原稿がかなりの部分を占めてきましたが、多くの企画が軌道に乗ったので、今後は会員からの自主的な投稿を歓迎いたします。とくに地方在住の会員から身近な問題や地方色豊かな興味深い話題を積極的に投稿されるよう期待しております。(天気編集委員会)

35